

# 与党、強引に重ねた審議

## 入管法採決ありき 職権連発

出入国管理法(入管法)改正案が参院本会議で成立する。政府・与党は今国会の最重要法案として強引に審議を重ね、成立を急いだ。野党は今国会での成立阻止で一致。参院審議の大詰めで法相、首相への問責決議案を相次ぎ提出し、攻勢を強めた。

▼1面参照

## 参院選控え 支持拡大意識

「職権、職権の連続で採決を押し通そうとする権力の一方的行使。与野党の合

意のないまま、強引な委員会運営ばかりだ。こんなことなら、与野党の協議など最初から要らない」

7日の参院本会議。立憲民主党の有田芳生氏は、横山信一・参院法務委員長(公明)の解任決議案の提案理由を説明する中でこう強調した。野党は、改正案の主要項目が成立後に決まるため、「白紙委任法だ」と批判。今国会での成立阻止を目指したが、与党は着々と採決に向けた動きを進めてきた。

7日の参院本会議で否決。山下貴司法相の問責決議案も7日に提出されたが、与党の反対多数で否決された。さらに野党は首相の問責決議案も提出した。与党はこれを否決した上で改正案を法務委で採決し、本会議に緊急上程して可決、成立させる方針だ。

## 野党、大詰めで結束 法相・首相問責相次ぎ提出

野党は入管法改正案への対応をめぐり、立憲民主党と国民民主党の間で不協和音が生じていたが、自民の「敵失」により攻勢を強めた。山下氏への問責決議案を共同提出したほか、「提案型」を掲げてきた国民も安倍晋三首相に対する問責決議案提出を主導した。

立憲は「徹底抗戦」を重視してきたのに対し、国民は改正案の対案を提出。「特定技能外国人の公正な処遇」「日本人労働者の労働条件低下を招かない適切な対応」など運用面で政府に注文をつける付帯決議をつけることで、参院法務委員会で改正案の採決に応じる構えをみせ、立憲と距離を置いてきた。

7日の参院本会議で横山氏に対する解任決議案を採決する際も、国民の桜井充氏は賛成討論に立ちながら「我々の対案の趣旨説明・質疑をさせて頂いた」と横

2時間45分も含まれる。このため、野党は参院の審議時間について「衆院と比較すること自体がおかしい」と指摘。徹底審議を求めた。それでも、今国会での成立に固執する与党は採決を急いだ。背景には、政府が新制度導入を来年4月と表明していることがある。来夏参院選を控え、人手不足が著しい建設や介護といっ

た業界団体の要望のほか、より深刻な人手不足に悩む地方の要望に応え、支持を広げたいとの計算もある。菅義偉官房長官は7日午後の会見で「外国人を受け入れる環境整備のため、職場、自治体、教育などの総合的な対応策を年内に取りまとめていきたい」。法成立を先取る形で、今後の政府方針を述べた。(菊地直己)

山氏への謝意を表明。異例の演説を展開した。その本会議で自民の「失態」が起きた。野党議員が堂故茂・農林水産委員長(自民)への解任決議案の趣旨説明をしていると、自民議員が演説時間の超過を指摘。壇上で与野党議員が対応を協議する中、自民議員が立憲議員の肩を小突いた。野党各党は一斉に反発、謝罪などの事態收拾に約4時間を費やした。

期せずして野党の結束が強まる中、対決機運は国民内に波及。幹部会で首相への問責決議案の提出を目指す方針を確認した。舟山康江・参院国会対策委員長は党会合で「あまりに法案審議を急ぐのは、根本は官邸から『早くしろ』と圧力があつたからだ」と断じ、立憲も同調。さらに国民は内閣不信任決議案の衆院への提出も立憲に呼びかけた。



参院法務委の開会前、安倍晋三首相に対する問責決議案について、野党議員らに説明する立憲民主党の有田芳生氏(左)117日、岩下毅撮影

### 安倍政権の重要法案の審議時間

第2次以降。各会派に割り当てられた政府や参考人らとの質疑時間。衆参事務局調べ

衆院	参院
特定秘密保護法(2013年) 40時間55分 21時間15分	
安全保障関連法(15年) 108時間20分 91時間23分	
「共謀罪」法(17年) 33時間45分 21時間20分	
働き方改革関連法(18年) 32時間30分 35時間50分	
カジノ実施法(18年) 18時間10分 21時間45分	
出入国管理法改正案(18年) 17時間15分 20時間45分	